

インテリな印象を与える組み合わせ

66CC66

333333

336666

CCCC99

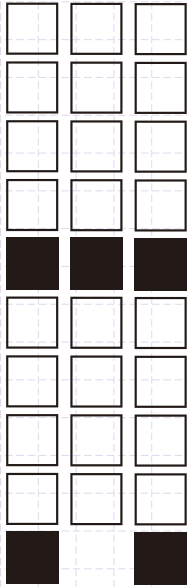
CCCCCC

彩度の低い無彩色を中心にして、落ち着いた黄緑色を差し色にする。そうすることで黒色のテキストなどを理性的に見せることができる

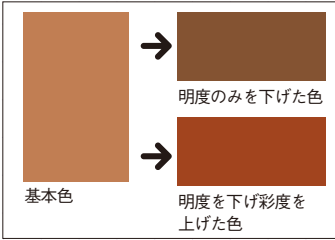
黄緑

YELLOW GREEN

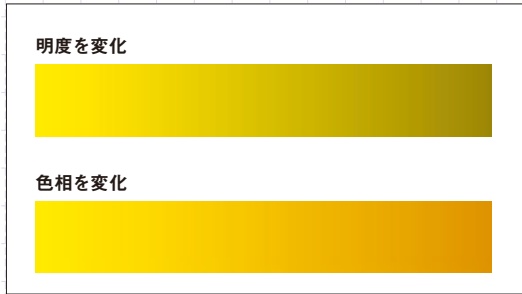
文：山田太郎（株）イー・ピー・シー



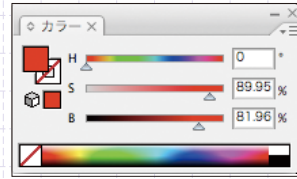
RGBでいうところの「赤」は「#ff0000」。これをディスプレイで見た場合、どちらかといえば派手さが目立つ



明度のみを変化させたほう(上段)は単純に色が暗くなっただけなのにに対し、明度と彩度を変化させたほう(下段)は色に深みが出ている



明度と色相のグラデーションの違い。色相のグラデーションはにがりなく華やかな印象だ



IllustratorやPhotoshopでは、カラーパネルに「HSBモード」が用意されている。RGBのスライダーで赤の色味を調整するよりは配色はしやすい

印刷物はCMYKのインクの配合で色味をつくり、それが紙に印刷されるためギラギラした印象にはなりにくい。しかし、WebはRGBの光の世界である。いわゆるRGBの赤は「#ff0000」だが、これではただ彩度の高いギラギラした色でしかなく、使用するサイトのイメージとあわずチープな印象になってしまうこともある。赤」と一口に言っても奥が深い色なのである。

彩度と明度をコントロールして最適な赤を選択

Webサイトはディスプレイで見るという性質上、彩度が強く色味が強い色は大きな存在感を発揮する。前述した「#ff0000」の赤は、たとえピンポイントで利用したとしても目立ちすぎほかの色との配色バランスが悪いとかえってチープに見えてしまう。低年齢層に向けたファッ

ションサイトやエンターテインメント系のサイトであれば違和感なく溶け込む可能性も高いといえるが、一般のコーポレートサイトなどで利用する場合は注意が必要だ。Adobe Photoshopなどを使ってサイトのデザインを作成する場合は、「RGB」のスライダーを使って色をピックアップするより、「HSB (WindowsはHSV)」のスライダーを使い、彩度や明度をコントロールしたほうがよいはずだ。赤を使うときは、彩度と明度の存在を意識して配色しよう。

色味が強く目に飛び込んでくる赤も明度と彩度の調整次第では、サイト全体の背景色としても利用できる場合もある。たとえば、女性向けの商品で赤を基調としたサイトをつくると仮定しよう。商品やサイトのもつイメージが「女性らしさ」、「上品さ」だとすれば、ここで使用するべき赤の色味は「#ff0000」ではないことはわかる。

まずは「赤」のもつ特徴を理解しよう

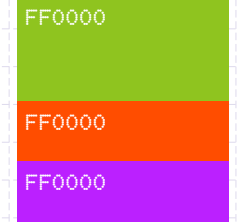
「赤」という色は、「情熱」、「強さ」、「生命力」、「危険」、「欲望」、「血」など、文化や人種の違いでさまざまなイメージに変化する。赤にもいろいろな赤があるが、人によってそれぞれ感じるイメージが異なるものだ。日本のWebサイトでは、コーポレートカラーや商品のテーマカラーとして赤が採用されている関係でサイト全体で使われることもあるが、それよりはるその色味の強さを利用してピンポイントでユーザーの視線を集める使い方をされることが多い。赤も黒同様、その色自体のもつ力は強い。広告などの

POINT

- ピビットトーンの赤は、人の感情をいちばん強く刺激する
- 高彩度×赤の配色でインパクトを与える
- グラデーションを利用して表現の幅を広げる

最新Web配色パターン

元気で活気のある配色



赤色、黄色、紫色の鮮やかな色は元気を強調できる。多彩な色を表面積の多い地色に多く配すると、元気な印象を演出できる

にぎやかさを強調した配色



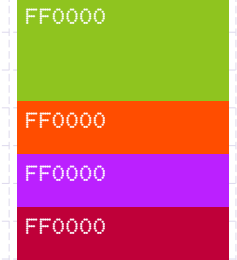
にぎやかな多色使いをしながら、抑えたトーンと効果的な赤色が落ち着いた力強さを表現してくれる

元気で活気のある配色



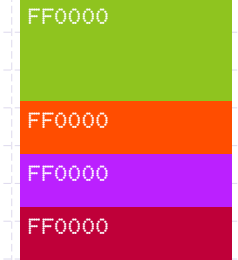
暖色中心の多色配色は、元気で楽しい雰囲気。ディープトーンでまとめ、パワフルさやエネルギー感を感じられる

元気で活気のある配色



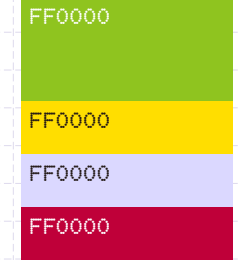
赤色、黄色、紫色の鮮やかな色は元気を強調できる。多彩な色を表面積の多い地色に多く配すると、元気な印象を演出できる

にぎやかさを強調した配色



にぎやかな多色使いをしながら、抑えたトーンと効果的な赤色が落ち着いた力強さを表現してくれる

元気で活気のある配色



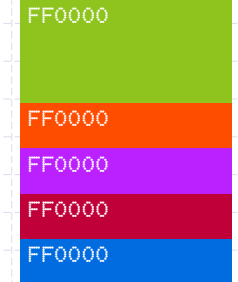
暖色中心の多色配色は、元気で楽しい雰囲気。ディープトーンでまとめ、パワフルさやエネルギー感を感じられる

元気で活気のある配色



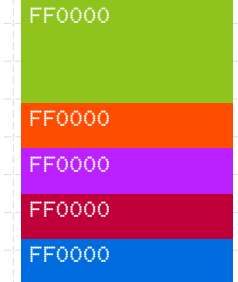
赤色、黄色、紫色の鮮やかな色は元気を強調できる。多彩な色を表面積の多い地色に多く配すると、元気な印象を演出できる

元気で活気のある配色



にぎやかな多色使いをしながら、抑えたトーンと効果的な赤色が落ち着いた力強さを表現してくれる

元気で活気のある配色



暖色中心の多色配色は、元気で楽しい雰囲気。ディープトーンでまとめ、パワフルさやエネルギー感を感じられる

国内サイト配色ケーススタディ



The Jazz Bar
www.thejazzbar.co.uk/
赤のモノトーンというJazzらしいシックでホットな暖色の中に、ポイント色のオレンジが使用されている点が魅力。



The Jazz Bar
www.thejazzbar.co.uk/
赤のモノトーンというJazzらしいシックでホットな暖色の中に、ポイント色のオレンジが使用されている点が魅力。



The Jazz Bar
www.thejazzbar.co.uk/
赤のモノトーンというJazzらしいシックでホットな暖色の中に、ポイント色のオレンジが使用されている点が魅力。

海外サイト配色ケーススタディ



The Jazz Bar
www.thejazzbar.co.uk/
赤のモノトーンというJazzらしいシックでホットな暖色の中に、ポイント色のオレンジが使用されている点が魅力。



The Jazz Bar
www.thejazzbar.co.uk/
赤のモノトーンというJazzらしいシックでホットな暖色の中に、ポイント色のオレンジが使用されている点が魅力。



The Jazz Bar
www.thejazzbar.co.uk/
赤のモノトーンというJazzらしいシックでホットな暖色の中に、ポイント色のオレンジが使用されている点が魅力。

彩度が高いビビットーンで エネルギッシュさを演出

文=山田太郎(株)エー・ピー・シー)

まずは「赤」のもつ特徴を 理解しよう

「赤」という色は、「情熱」、「強さ」、「生命力」、「危険」、「欲望」、「血」など、文化や人種の違いでさまざまなイメージに変化する。赤にもいろいろな赤があるが、人によってそれぞれ感じるイメージが異なるものだ。日本のWebサイトでは、コーポレートカラーや商品のテーマカラーとして赤が採用されている関係でサイト全体で使われることもあるが、それよりはるその色味の強さを利用してピンポイントでユーザーの視線を集める使い方をされることが多い。赤も黒同様、その色自体のもつ力は強い。広告などの印刷物はCMYKのインクの配合で色味をつくり、それが紙に印刷されるためキラキラした印象にはなりにくい。しかし、WebはRGBの光の世界である。いわゆるRGBの赤は「#ff0000」だが、これではただ彩度の高いキラキラした色でしかなく、使用するサイトのイメージとあわずチープな印象になってしまうこともある。赤」と一口に言っても奥が深い色なのである。

彩度と明度をコントロールして 最適な赤を選択

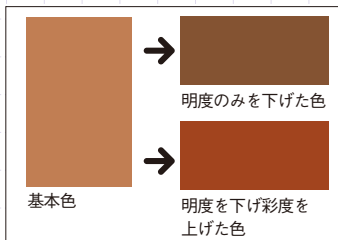
Webサイトはディスプレイで見るという性質上、彩度が強く色味が強い色は大きな存在感を發揮する。前述した「#ff0000」の赤は、たとえピンポイントで利用したとしても目立ちすぎ、ほかの色との配色バランスが悪いとかえってチープに見えてしまう。低年齢層に向けたファッションサイトやエンターテインメント系のサイトであれば違和感なく溶け込む可能性も高いと

いえるが、一般のコーポレートサイトなどで利用する場合は注意が必要だ。Adobe Photoshopなどを使ってサイトのデザインを作成する場合は、「RGB」のスライダーを使って色をピックアップするより、「HSB(WindowsはHSV)」のスライダーを使い、彩度や明度をコントロールしたほうがよいはずだ。赤を使うときは、彩度と明度の存在を意識して配色しよう。

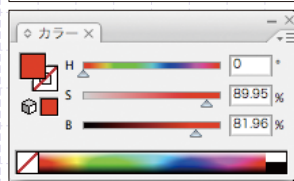
色味が強く目に飛び込んでくる赤も明度と彩度の調整次第では、サイト全体の背景色としても利用できる場合もある。たとえば、女性向けの商品で赤を基調としたサイトをつくると仮定しよう。商品やサイトのもつイメージが「女性らしさ」、「上品さ」だとすれば、ここで使用するべき赤の色味は「#ff0000」ではないことはわかる。



RGBでいうところの「赤」は「#ff0000」。これをディスプレイで見た場合、どちらかといえば派手さが目立つ



明度のみを変化させたほう(上段)は単純に色が暗くなっただけなのに対し、明度と彩度を変化させたほう(下段)は色に深みが出ている



IllustratorやPhotoshopでは、カラーパネルに「HSBモード」が用意されている。RGBのスライダーで赤の色味を調整するよりは配色はしやすい



明度と色相のグラデーションの違い。色相のグラデーションはにがりがなく華やかな印象だ

国内サイト配色ケーススタディ



The Jazz Bar
www.thejazzbar.co.uk/
赤のモノトーンというJazzらしいシックでホットな暖色の中に、ポイント色のオレンジが使用されている点が魅力。



The Jazz Bar
www.thejazzbar.co.uk/
赤のモノトーンというJazzらしいシックでホットな暖色の中に、ポイント色のオレンジが使用されている点が魅力。



The Jazz Bar
www.thejazzbar.co.uk/
赤のモノトーンというJazzらしいシックでホットな暖色の中に、ポイント色のオレンジが使用されている点が魅力。

最新Web配色パターン

元気で活気のある配色



赤色、黄色、紫色の鮮やかな色は元気を強調できる。多彩な色を表面積の多い地色に多く配すると、元気な印象を演出できる

元気で活気のある配色



赤色、黄色、紫色の鮮やかな色は元気を強調できる。多彩な色を表面積の多い地色に多く配すると、元気な印象を演出できる

元気で活気のある配色



赤色、黄色、紫色の鮮やかな色は元気を強調できる。多彩な色を表面積の多い地色に多く配すると、元気な印象を演出できる

にぎやかさを強調した配色



にぎやかな多色使いをしながら、抑えたトーンと効果的な赤色が落ち着いた力強さを表現してくれる

元気で活気のある配色



にぎやかな多色使いをしながら、抑えたトーンと効果的な赤色が落ち着いた力強さを表現してくれる

元気で活気のある配色



にぎやかな多色使いをしながら、抑えたトーンと効果的な赤色が落ち着いた力強さを表現してくれる

元気で活気のある配色



暖色中心の多色配色は、元気で楽しげな雰囲気。ディープトーンでまとめたパワフルさやエネルギッシュなイメージが感じられる

元気で活気のある配色



暖色中心の多色配色は、元気で楽しげな雰囲気。ディープトーンでまとめたパワフルさやエネルギッシュなイメージが感じられる

元気で活気のある配色



暖色中心の多色配色は、元気で楽しげな雰囲気。ディープトーンでまとめたパワフルさやエネルギッシュなイメージが感じられる

海外サイト配色ケーススタディ



The Jazz Bar
www.thejazzbar.co.uk/
赤のモノトーンというJazzらしいシックでホットな暖色の中に、ポイント色のオレンジが使用されている点が魅力。



The Jazz Bar
www.thejazzbar.co.uk/
赤のモノトーンというJazzらしいシックでホットな暖色の中に、ポイント色のオレンジが使用されている点が魅力。



The Jazz Bar
www.thejazzbar.co.uk/
赤のモノトーンというJazzらしいシックでホットな暖色の中に、ポイント色のオレンジが使用されている点が魅力。

白

WHITE

彩度が高いビビットトーンで エネルギッシュさを演出

文=山田太郎(株)エー・ピー・シー)

まずは「赤」のもつ特徴を理解しよう

「赤」という色は、「情熱」、「強さ」、「生命力」、「危険」、「欲望」、「血」など、文化や人種の違いでさまざまなイメージに変化する。赤にもいろいろな赤があるが、人によってそれぞれ感じるイメージが異なるものだ。日本のWebサイトでは、コーポレートカラーや商品のテーマカラーとして赤が採用されている関係でサイト全体で使われることもあるが、それよりはるその色味の強さを利用してピンポイントでユーザーの視線を集める使い方をされることが多い。赤も黒同様、その色自体のもつ力は強い。広告などの印刷物はCMYKのインクの配合で色味をつくり、それが紙に印刷されるためキラキラした印象にはなりにくい。しかし、WebはRGBの光の世界である。いわゆるRGBの赤は「#ff0000」だが、これではただ彩度の高いキラキラした色でしかなく、使用するサイトのイメージとあわずチープな印象になってしまうこともある。赤」と一口に言っても奥が深い色なのである。

彩度と明度をコントロールして最適な赤を選択

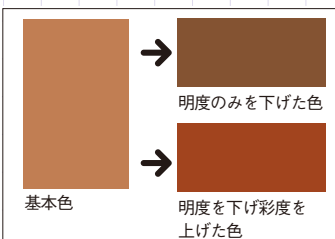
Webサイトはディスプレイで見るという性質上、彩度が強く色味が強い色は大きな存在感を發揮する。前述した「#ff0000」の赤は、たとえピンポイントで利用したとしても目立ちすぎ、ほかの色との配色バランスが悪いとかえってチープに見えてしまう。低年齢層に向けたファッションサイトやエンターテインメント系のサイトであれば違和感なく溶け込む可能性も高いと

いえるが、一般のコーポレートサイトなどで利用する場合は注意が必要だ。Adobe Photoshopなどを使ってサイトのデザインを作成する場合は、「RGB」のスライダーを使って色をピックアップするより、「HSB(WindowsはHSV)」のスライダーを使い、彩度や明度をコントロールしたほうがよいはずだ。赤を使うときは、彩度と明度の存在を意識して配色しよう。

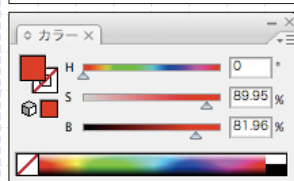


RGBでいうところの「赤」は「#ff0000」。これをディスプレイで見た場合、どちらかといえば派手さが目立つ

色味が強く目に飛び込んでくる赤も明度と彩度の調整次第では、サイト全体の背景色としても利用できる場合もある。たとえば、女性向けの商品で赤を基調としたサイトをつくると仮定しよう。商品やサイトのもつイメージが「女性らしさ」、「上品さ」だとすれば、ここで使用するべき赤の色味は「#ff0000」ではないことはわかる。



明度のみを変化させたほう(上段)は単純に色が暗くなっただけなのに対し、明度と彩度を変化させたほう(下段)は色に深みが出ている



IllustratorやPhotoshopでは、カラーパネルに「HSBモード」が用意されている。RGBのスライダーで赤の色味を調整するよりは配色はしやすい



明度と色相のグラデーションの違い。色相のグラデーションはにがりがなく華やかな印象だ

国内サイト配色ケーススタディ



The Jazz Bar
www.thejazzbar.co.uk/
赤のモノトーンというJazzらしいシックでホットな暖色の中に、ポイント色のオレンジが使用されている点が魅力。



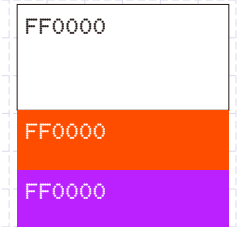
The Jazz Bar
www.thejazzbar.co.uk/
赤のモノトーンというJazzらしいシックでホットな暖色の中に、ポイント色のオレンジが使用されている点が魅力。



The Jazz Bar
www.thejazzbar.co.uk/
赤のモノトーンというJazzらしいシックでホットな暖色の中に、ポイント色のオレンジが使用されている点が魅力。

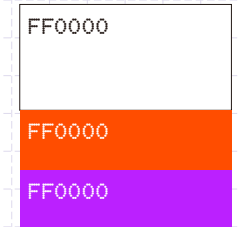
最新Web配色パターン

元気で活気のある配色



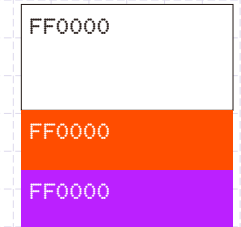
赤色、黄色、紫色の鮮やかな色は元気を強調できる。多彩な色を表面積の多い地色に多く配すると、元気な印象を演出できる

にぎやかさを強調した配色



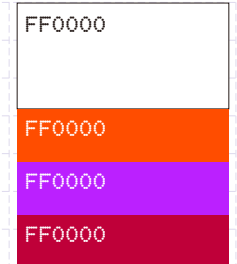
にぎやかな多色使いをしながら、抑えたトーンと効果的な赤色が落ち着いた力強さを表現してくれる

元気で活気のある配色



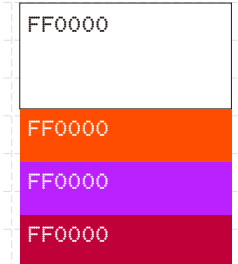
暖色中心の多色配色は、元気で楽しい雰囲気。ディープトーンでまとめ、パワフルさやエネルギッシュなイメージが感じられる

元気で活気のある配色



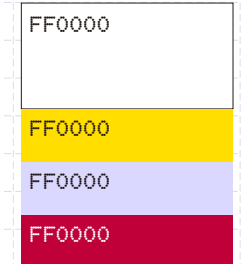
赤色、黄色、紫色の鮮やかな色は元気を強調できる。多彩な色を表面積の多い地色に多く配すると、元気な印象を演出できる

元気や活気を強調した配色



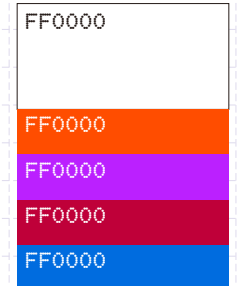
にぎやかな多色使いをしながら、抑えたトーンと効果的な赤色が落ち着いた力強さを表現してくれる

元気で活気のある配色



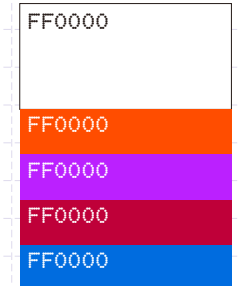
暖色中心の多色配色は、元気で楽しい雰囲気。ディープトーンでまとめ、パワフルさやエネルギッシュなイメージが感じられる

元気で活気のある配色



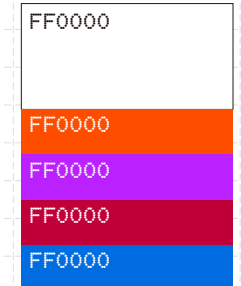
赤色、黄色、紫色の鮮やかな色は元気を強調できる。多彩な色を表面積の多い地色に多く配すると、元気な印象を演出できる

元気や活気を強調した配色



にぎやかな多色使いをしながら、抑えたトーンと効果的な赤色が落ち着いた力強さを表現してくれる

元気で活気のある配色



暖色中心の多色配色は、元気で楽しい雰囲気。ディープトーンでまとめ、パワフルさやエネルギッシュなイメージが感じられる

海外サイト配色ケーススタディ



The Jazz Bar
www.thejazzbar.co.uk/
赤のモノトーンというJazzらしいシックでホットな暖色の中に、ポイント色のオレンジが使用されている点が魅力。



The Jazz Bar
www.thejazzbar.co.uk/
赤のモノトーンというJazzらしいシックでホットな暖色の中に、ポイント色のオレンジが使用されている点が魅力。



The Jazz Bar
www.thejazzbar.co.uk/
赤のモノトーンというJazzらしいシックでホットな暖色の中に、ポイント色のオレンジが使用されている点が魅力。